

事務事業評価シート

(平成 24 年度実施事業)

事務事業名	グラウンドワークによる公園整備事業			事業コード	2405
所属コード	092000	課等名	公園みどり課	係名	花と緑のまちづくり担当
課長名	及川直文	担当者名	松本啓	内線番号	7268
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	快適な都市機能	コード	7
	施策	うるおいのある公園・街路樹の確保	コード	4
	基本事業	スペースの確保	コード	1
予算費目名	一般会計 8 款 4 項 7 目 都市公園整備事業 (002-02)			
特記事項				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度			開始年度 平成 11 年度
根拠法令等				

(2) 事務事業の概要

専門家や行政等のアドバイスを受けながら、グラウンドワークと呼ばれる手法を用いて、地域の住民が自ら地域の公園の計画を行い整備を進めていく事業。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

市内には、幼児公園やプレーロット等の小公園が約 250 箇所あるが、少子高齢化により公園利用者が減少し、荒れるままになっている状況のものや、約 20 箇所の未開設公園があり、公園のリニューアルや整備が課題となっているが、厳しい財政状況により整備が進捗しない状況にある。そのため、一部の地区において地元住民や企業等による公園整備が動き出し、平成 11 年度より市との協働により取り組んでいる。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

公園の再整備や維持管理を通し、地元住民のコミュニケーションも深まり、地域の活性化に繋がっている。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象（誰が，何が対象か）

街区公園（幼児・児童公園），住民

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 見込み
A 開設街区公園数	箇所	404	410	417	417	
B 町内会総数	組織	374	374	377	377	
C						

(3) 24 年度に実施した主な活動・手順

厨川地区の公園整備

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A グラウンドワークによる整備公園数	箇所	2	1	2	2	1
B グラウンドワークに取り組んだ町内会数	組織	3	1	2	2	1
C ワークショップ開催回数	回	6	11	6	6	10

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

地域住民が利用したくなるような公園に整備し，また維持管理を適切に行えるような体制を作る。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A グラウンドワークによる整備公園数（累計）	☒ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持	箇所	12	13	15	15	16
B グラウンドワークに取り組んだ町内会数（累計）	☒ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持	組織	8	9	10	10	11
C	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	22 年度実績	23 年度実績	24 年度計画	24 年度実績
事業費	①国	千円	0	2,750	2,400	2,429
	②県	千円	1,000	0	0	0
	③地方債	千円	0	2,400	2,100	2,100
	④一般財源	千円	1,653	353	300	330
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	2,653	5,503	4,800	4,859
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	340	200	200	200
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	1,360	800	800	800
計	トータルコスト A+B	千円	4,013	6,303	5,600	5,659
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

結びついている。

理由：整備が必要な公園を，地元住民や企業等の協力を得て整備し，公園の利用促進と維持管理の適正化を図るものである。

② 市の関与の妥当性

妥当である。

理由：地元住民や企業等の協力を得て公園整備を行なうものであり，市の整備費削減効果のほか，住民にとってもより身近な公園として親しまれ，維持管理への関心も高まるため。

③ 対象の妥当性

現状で妥当である。

理由：本事業は，地元住民と協働して実施するものであり，地元住民が主に利用し，維持管理も行っている小規模公園（街区公園）を対象としている。それ以上の大規模公園は地元住民だけでは維持管理も困難であり，本事業にそぐわない。

④ 廃止・休止の影響

影響がある。

その内容：公園の再整備や未開設公園の整備が停滞し，公共空間として活用されなくなるおそれがある。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

向上の余地がない。

理由：地元住民の協力をいただき，最低限の予算で実施しているため，成果向上のため整備箇所を増やすことは，事業費と人件費が更に必要となる。

(3) 公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

- ・受益機会の適正化余地

公正・公平である。

理由：全町内会に本事業の周知と協力依頼をしており，地元の負担が大きいことから，自主的に取組みの意思を表明した町内会から実施している。

- ・費用負担の適正化余地

特定の受益者はいない。

(4) 効率性評価

- ・事業費の削減余地

削減できない。

理由：地元住民，企業の協力を得て，最低限の予算で実施している。

- ・人件費の削減余地

削減できない。

理由：コーディネーターとして職員の派遣が不可欠であり，事業が促進されることに伴い人員も必要となる。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 改革改善の方向性

本事業の周知を徹底し，地元に対して実施に向けた機運を高め，グラウンドワークによる整備箇所の増加に努める。また，地区ごとの地域協働とも連携し，本事業を活用した公園整備に取り組む。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

整備箇所の増加に併せて，人員及び事業費の確保が必要となるが，現状の財政状況では，現状以上の予算確保は困難である。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- ☒ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☐ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

これまでは，本事業に関心があり，理解を得られた町内会等において事業を実施してきているが，老朽化した公園等の再整備に繋がることから，今後は市からの積極的な働きかけも検討していく必要がある。